



“季語刻変秀句”

【3月度】 “楽しさの余韻を残し納め糺”

【4月度】 “霾（つちふ）るや交野の峰をかき消せり” 霾る → 黄砂のこと

寒さ過ぎ名残惜しむ冬、桜咲く春へと変わり、俳句作りには多くの季語で楽しむことができます。それだけに多くの秀句が生まれます。

3月度の詠句

皆さんの投句をお待ちしています!

- ・ 落ち椿参拝飾る土神花
- ・ 朝日射す霏の水面に鴨の影
- ・ 桜咲く君は術後に杖忘れ
- ・ 鶯の身を逆さまに鳴いており
- ・ 堀の内彼岸の塔婆握り行く
- ・ 春場所や初物尽くし津軽弁
- ・ 堰落つるしぶきも春の息吹かな
- ・ 報来たり季節変わるかお水取り



4月度の詠句

- ・ 君が病み車で送迎春悲し
- ・ 櫻散る老いの月日は矢のごとし
- ・ 近すぎるカメラに恥じらふ桜かな
- ・ 久々の鋤入れ跡や土匂う
- ・ 桜背に詰襟の子ら雄々しきや
- ・ 散る桜追う稚児を見る親の愛
- ・ 参道を狭めるつつじ宮参り
- ・ れんげ咲き田打ちを待つトラクター

◆ 写真を見て一句 ◆

【3月】花の雨

- ・ 花の雨路にえがくは花模様
- ・ 咲きそびれ蕾のまままで雨の花
- ・ 花の雨終えて花に陽つゆきらり
- ・ 四阿に尽きぬ語らひ花の雨
- ・ 部屋干しに妻のため息菜種梅雨

賀茂の堤



【4月】茶摘み

- ・ 茶摘みする黄色き畑に籠と亡母
- ・ 機械刈り茶摘みの風情今いずこ
- ・ 茶摘女の茜だすきに手甲巻く
- ・ つば帽のひと息娘らの茶摘み丘



季語問わず!  
会員の方々の投句、  
待ってまーす

担当幹事：鳥越・園田・金子